

行政評価（継続事業）
第4編第2章 総合交通ネットワークを構築する

No.	事業区分	事務事業名	事業実施課	事業概要	財源	概算コスト(単位:千円)				主な活動指標				主な成果指標				達成度 指標の達成状況	妥当性 指標の目標水準	効率性 事業の必要性	有効性 市の関与	効果性 事業手法	有効性 事業の統合	有効性 コスト削減の工夫	効果性 成果向上への見直し	効果性 施策効果	効果性 受益者負担の見直し	一次評価結果	二次評価結果	評価理由	
						17年度	18年度	19年度	20年度	指標名	17年度	18年度	19年度	20年度	指標名	17年度	18年度														19年度
1	社会基盤・都市施設基盤	鉄道網の整備促進	企画部 交通政策課	○事業開始年度 昭和52年度 【概要】鹿児島県鉄道整備促進協議会、指宿枕崎線輸送強化促進期成会の一員として負担金を支出し、JR等関係機関に対して、鉄道交通網の整備促進に関する要望を行う。 【対象者】鹿児島県鉄道整備促進協議会、指宿枕崎線輸送強化促進期成会 【具体的な活動内容】JR九州鹿児島支社、九州本社等に対して、鉄道交通網の整備促進に関する要望活動を行う。	市単	[概算コスト]977 ・決算額128 ・人件費849 (0.20人)	[概算コスト]546 ・決算額121 ・人件費425 (0.10人)	[概算コスト]545 ・決算額110 ・人件費435 (0.10人)	[概算コスト]543 ・決算額114 ・人件費429 (0.10人)	負担金の支出回数 (単位:回)	[目標値]2 [実績値]2 達成率100.0%	[目標値]2 [実績値]2 達成率100.0%	[目標値]2 [実績値]2 達成率100.0%	[目標値]2 [実績値]2 達成率100.0%	鉄道交通網の整備促進	[目標値] [実績値] 達成率	[目標値] [実績値] 達成率	[目標値] [実績値] 達成率	[目標値] [実績値] 達成率	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	A	A	現状のまゝ継続 (理由) 鉄道交通網は、地域間交流の重要な交通基盤として不可欠であり、整備促進を図るため必要な事業である。
2	社会基盤・都市施設基盤	高規格幹線道路等の整備促進	建設局 街路整備課	○事業開始年度 昭和55年度 【概要】高規格幹線道路等の整備促進を図るため、関係市町等で組織する期成会等での活動を通して、国等への要望活動を行う。 【対象者】期成会 【具体的な活動内容】南九州西回り自動車道建設促進期成会ほか9つの期成会等において、国等への要望活動を行い、鹿児島市と沿線市町・隣県を結ぶ高規格幹線道路等の整備促進を図る。 ※これまでの主な成果 ○南九州西回り自動車道 供用中:鹿児島IC～薩摩川内IC間 ○東九州自動車道 供用中:鹿児島IC～末吉財部間	市単	[概算コスト]6,542 ・決算額811 ・人件費5,731 (1.35人)	[概算コスト]7,871 ・決算額739 ・人件費7,132 (1.68人)	[概算コスト]7,842 ・決算額710 ・人件費7,132 (1.68人)	[概算コスト]7,825 ・決算額693 ・人件費7,132 (1.68人)	期成会等総会・幹事会参加回数 (単位:回)	[目標値]18 [実績値]18 達成率100.0%	[目標値]18 [実績値]18 達成率100.0%	[目標値]16 [実績値]16 達成率100.0%	[目標値]16 [実績値]16 達成率100.0%	高規格幹線道路整備率 (単位:%)	[目標値]68 [実績値]53 達成率77.9%	[目標値]68 [実績値]55 達成率80.9%	[目標値]68 [実績値]55 達成率80.9%	[目標値]68 [実績値]55 達成率80.9%	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	A	A	現状のまゝ継続 (理由) 交流人口を増大させる交通ネットワークを構築するため、高規格幹線道路等の整備促進の要望活動を継続して実施する必要がある。	
3	社会基盤・都市施設基盤	JR広木駅(仮称)設置促進事業	企画部 交通政策課	○事業開始年度 平成13年度 【概要】平成19年度にJR九州と締結した工事に関する基本協定に基づき、JR九州がホームなどの駅施設の整備工事を行うとともに、鹿児島市が駅前広場の整備工事を行う。 【対象者】JR広木駅(仮称)付近の住民 【具体的な活動内容】平成20年度の概要 ・駅施設の整備工事(JR九州)(ホームなどの整備) ・駅前広場の整備工事(市) ・新駅開業(予定)	市単	[概算コスト]7,208 ・決算額2,963 ・人件費4,245 (1.00人)	[概算コスト]17,346 ・決算額13,101 ・人件費4,245 (1.00人)	[概算コスト]18,803 ・決算額14,888 ・人件費3,915 (0.90人)	[概算コスト]314,833 ・決算額310,968 ・人件費3,865 (0.90人)	当該年度までの累積事業費/全体事業費 (単位:千円)	[目標値]348,691 [実績値]9,733 達成率2.8%	[目標値]348,691 [実績値]22,835 達成率6.5%	[目標値]348,691 [実績値]37,723 達成率10.8%	[目標値]348,691 [実績値]37,723 達成率10.8%	公共交通機関の機能強化	[目標値] [実績値] 達成率	[目標値] [実績値] 達成率	[目標値] [実績値] 達成率	[目標値] [実績値] 達成率	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	F	F	終了 (理由) JR広木駅(仮称)が21年3月に開業する見込みであることから、それに伴い事業を終了する。		
4	社会基盤・都市施設基盤	バス運行対策費補助事業	企画部 交通政策課	○事業開始年度 平成14年度 【概要】輸送人員の減少により、路線維持が困難となっている生活交通路線(※)を運行するバス事業者に対して、補助金を交付する。 【対象者】バス事業者 【具体的な活動内容】生活交通路線について、国、県と協働し、経常費用と経常収益の差額を補助する。(負担割合 国・県:経常経費の4.5/20以下、市:経常経費の11/20と経常収益の差額) ※ 複数市町村にまたがり、キロ程が10km以上、1日の輸送量が15人～150人、1日の運行回数が3回以上、広域行政圏の中心都市等にアクセスする広域的・幹線的な路線	市単	[概算コスト]1,865 ・決算額1,440 ・人件費425 (0.10人)	[概算コスト]3,121 ・決算額2,696 ・人件費425 (0.10人)	[概算コスト]6,103 ・決算額5,668 ・人件費435 (0.10人)	[概算コスト]5,929 ・決算額5,500 ・人件費429 (0.10人)	補助金交付件数 (単位:件)	[目標値]1 [実績値]1 達成率100.0%	[目標値]1 [実績値]1 達成率100.0%	[目標値]3 [実績値]3 達成率100.0%	[目標値]3 [実績値]3 達成率100.0%	維持された路線数 (単位:系統)	[目標値]1 [実績値]1 達成率100.0%	[目標値]3 [実績値]3 達成率100.0%	[目標値]7 [実績値]7 達成率100.0%	[目標値]7 [実績値]7 達成率100.0%	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	A	A	現状のまゝ継続 (理由) 地域住民の福祉を確保するために、生活交通路線としての広域・幹線的なバス路線について補助することは必要である。	
5	社会基盤・都市施設基盤	コミュニティバス運行事業	企画部 交通政策課	○事業開始年度 平成16年度 【概要】吉田・松元・郡山地域において、住民の交通手段の確保を図り、もって住民の福祉の向上に資するため、コミュニティバスを運行する。 【対象者】吉田・松元・郡山地域の住民 【具体的な活動内容】コミュニティバスの運行を依頼した事業者に対して、運行経費と運行収入の差額を補助する。	市単	[概算コスト]22,638 ・決算額20,940 ・人件費1,698 (0.40人)	[概算コスト]24,722 ・決算額23,024 ・人件費1,698 (0.40人)	[概算コスト]23,899 ・決算額22,594 ・人件費1,305 (0.30人)	[概算コスト]29,558 ・決算額27,840 ・人件費1,718 (0.40人)	補助金交付件数 (単位:件)	[目標値]3 [実績値]3 達成率100.0%	[目標値]3 [実績値]3 達成率100.0%	[目標値]3 [実績値]3 達成率100.0%	[目標値]3 [実績値]3 達成率100.0%	運行系統数 (単位:系統)	[目標値]14 [実績値]14 達成率100.0%	[目標値]14 [実績値]14 達成率100.0%	[目標値]15 [実績値]15 達成率100.0%	[目標値]15 [実績値]15 達成率100.0%	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	Ba	Ba	事業手段の見直し(手段の改善等) (理由) 補助金額について増加傾向にあることから、運行ルートの見直しなどの利用促進策や運賃の見直しを検討するべきである。	
6	社会基盤・都市施設基盤	公共交通不便地対策事業	企画部 交通政策課	○事業開始年度 平成18年度 【概要】公共交通機関が利用できず、著しく不便と思われる本市の公共交通不便地において、必要に応じて有効な対策を導入し、公共交通不便地の解消を図ろうとするもの。 【対象者】公共交通不便地の住民 【具体的な活動内容】 ・19年度 公共交通不便地14エリアのうち、特に優先的に取り組む必要がある3エリアについて具体的な基本計画・事業計画を検討。 結果4エリアの計画を策定。 ・20年度 19年度策定の事業計画に基づき、コミュニティバスの運行開始	国補助	[概算コスト]0 ・決算額0 ・人件費0	[概算コスト]9,737 ・決算額8,463 ・人件費1,274 (0.30人)	[概算コスト]15,075 ・決算額11,160 ・人件費3,915 (0.90人)	[概算コスト]33,009 ・決算額29,144 ・人件費3,865 (0.90人)	対応策の導入エリア数 (単位:エリア)	[目標値]0 [実績値]0 達成率0.0%	[目標値]0 [実績値]0 達成率0.0%	[目標値]0 [実績値]0 達成率0.0%	[目標値]0 [実績値]0 達成率0.0%	公共交通不便地の解消エリア数 (単位:エリア)	[目標値]14 [実績値]0 達成率0.0%	[目標値]14 [実績値]0 達成率0.0%	[目標値]14 [実績値]0 達成率0.0%	[目標値]14 [実績値]0 達成率0.0%	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	A	A	現状のまゝ継続 (理由) 公共交通不便地における高齢者などの交通手段の確保のため必要な事業である。	
7	社会基盤・都市施設基盤	廃止バス路線対策事業	企画部 交通政策課	○事業開始年度 平成18年度 【概要】岩崎グループのバス路線廃止に伴い、地域住民の日常生活や公共施設の利用に必要な公共交通手段を確保するため、その代替として、廃止路線代替バスやコミュニティバスを運行する。 【対象者】バス事業者 【具体的な活動内容】 ・本市単独廃止路線代替バスの運行(「犬迫方面」「皆与志方面」「谷山地区」) ・廃止路線代替バスの運行(加世田方面)	市単	[概算コスト]0 ・決算額0 ・人件費0	[概算コスト]4,800 ・決算額1,828 ・人件費2,972 (0.70人)	[概算コスト]38,467 ・決算額37,162 ・人件費1,305 (0.30人)	[概算コスト]29,661 ・決算額28,373 ・人件費1,288 (0.30人)	補助金交付件数 (単位:件)	[目標値]4 [実績値]4 達成率100.0%	[目標値]4 [実績値]4 達成率100.0%	[目標値]4 [実績値]4 達成率100.0%	[目標値]4 [実績値]4 達成率100.0%	運行路線数 (単位:系統)	[目標値]18 [実績値]18 達成率100.0%	[目標値]10 [実績値]10 達成率100.0%	[目標値]10 [実績値]10 達成率100.0%	[目標値]10 [実績値]10 達成率100.0%	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎	A	A	現状のまゝ継続 (理由) 地域住民の日常生活や公共施設の利用するうえで公共交通手段を確保するため必要な事業である。	

行政評価（継続事業）

第4編第2章 総合交通ネットワークを構築する

No.	事業区分	事務事業名	事業実施課	事業概要	財源	概算コスト(単位:千円)				主な活動指標				主な成果指標				達成度	妥当性	効率性	有効性	公平性	受益者負担の見直し	一次評価結果	二次評価結果	評価理由								
						17年度	18年度	19年度	20年度	指標名	17年度	18年度	19年度	20年度	指標名	17年度	18年度										19年度	20年度						
15	施設維持・管理	LRTシステム整備事業(軌道改良事業)	交通局 電車事業課	○事業開始年度 平成18年度 【概要】軌道の安全性を確保するとともに低振動・低騒音による乗り心地等の快適性向上を図るため、軌道改良工事を行う。 【対象者】市電利用者 【具体的な活動内容】 18・19年度…谷山～上塩屋間 600m完了 20年度…笹貴～上塩屋 300m 21年度…笹貴～上塩屋 300m 22年度…脇田～笹貴～上塩屋、浜橋～南鹿児島駅 300m	特会	[概算コスト]0 [内訳] ・決算額 ・人件費	[概算コスト]60,989 [内訳] ・決算額 ・人件費	[概算コスト]57,013 [内訳] ・決算額 ・人件費	[概算コスト]66,415 [内訳] ・予算額 ・人件費	軌道改良工事完了区間 (単位:m)	[目標値]300 [実績値]300	[目標値]300 [実績値]300	[目標値]300 [実績値]300	[目標値]300 [実績値]300	市電の走行環境の改善	[目標値] [実績値]	[目標値] [実績値]	[目標値] [実績値]	[目標値] [実績値]	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	A	A	現状のまゝ継続 (理由) 利用者の安全性と快適性の向上を図るため、軌道改良工事は必要である。
16	施設維持・管理	LRTシステム整備事業(停留場上屋整備事業)	交通局 電車事業課	○事業開始年度 平成18年度 【概要】利用者のサービス向上を図るため、停留場に上屋を設置する。 【対象者】市電利用者 【具体的な活動内容】 18年度…高見橋(上・下)、中郡(上・下)の4箇所設置完了 19年度…市役所前(上)、朝日通(上)、純心学園前(上・下)の4箇所設置完了 20年度…水族館口(上り)、桜島橋通(上り)	特会	[概算コスト]0 [内訳] ・決算額 ・人件費	[概算コスト]15,238 [内訳] ・決算額 ・人件費	[概算コスト]15,737 [内訳] ・決算額 ・人件費	[概算コスト]8,086 [内訳] ・予算額 ・人件費	停留場上屋設置の箇所数 (単位:箇所)	[目標値]4 [実績値]4	[目標値]4 [実績値]4	[目標値]4 [実績値]4	[目標値]4 [実績値]4	電車利用客へのサービスの向上を図る	[目標値] [実績値]	[目標値] [実績値]	[目標値] [実績値]	[目標値] [実績値]	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	A	A	現状のまゝ継続 (理由) 利用者の利便性向上のため、停留場の上屋整備は必要である。	
17	施設維持・管理	市電車体更新事業	交通局 電車事業課	○事業開始年度 平成19年度 【概要】昭和30年代に導入し、老朽化した600形電車の車体(台車)を年次的に更新し、安全輸送を図る。 【対象者】市電利用者 【具体的な活動内容】 ・平成19年度 台車調査 ・平成20年度 台車更新(2両)	国補助	[概算コスト]0 [内訳] ・決算額 ・人件費	[概算コスト]0 [内訳] ・決算額 ・人件費	[概算コスト]2,560 [内訳] ・決算額 ・人件費	[概算コスト]67,008 [内訳] ・予算額 ・人件費	平成19年度台車調査 (単位:両)	[目標値]9 [実績値]9	[目標値]9 [実績値]9	[目標値]9 [実績値]9	[目標値]9 [実績値]9	平成20年度台車更新 (単位:両)	[目標値]2 [実績値]2	[目標値]2 [実績値]2	[目標値]2 [実績値]2	[目標値]2 [実績値]2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	A	A	現状のまゝ継続 (理由) 輸送の安全性の確保のため、老朽化した車体(台車)を更新することは必要である。	
18	市民サービス	低公害・低床型車両導入事業	交通局 バス事業課	○事業開始年度 平成17年度 【概要】利用者の利便性の向上を図るため、車両更新時に低公害・低床型車両を導入する。 【対象者】一般市民 【具体的な活動内容】 バリアフリー基準に適合し、また低公害の低床型バスを年次的に導入する	国補助	[概算コスト]178,738 [内訳] ・決算額 ・人件費	[概算コスト]272,962 [内訳] ・決算額 ・人件費	[概算コスト]206,612 [内訳] ・決算額 ・人件費	[概算コスト]166,640 [内訳] ・予算額 ・人件費	購入台数 (単位:台)	[目標値]5 [実績値]5	[目標値]8 [実績値]8	[目標値]7 [実績値]7	[目標値]5 [実績値]5	総車両数に対する低公害・低床型バスの占める割合 (単位:%)	[目標値]25 [実績値]13	[目標値]25 [実績値]17	[目標値]25 [実績値]20	[目標値]25 [実績値]20	△	◎	◎	○	◎	◎	○	○	○	○	-	A	A	現状のまゝ継続 (理由) 輸送の安全性の確保及び利用者の利便性向上のため、更新の際に低公害・低床型車両を導入することは必要である。	
19	調査・研究	バス運行情報提供システム導入調査事業	交通局 総合企画課	○事業開始年度 平成19年度 【概要】公共交通機関としてのバスの利用促進を図るために、利用者の利便性向上策の一つとして、バス運行情報提供システムの導入検討を進める。 【対象者】バス利用者 【具体的な活動内容】 19年度は、バス運行情報に関する提供内容や提供方法などの利用者ニーズ調査を実施し、20年度は、他都市における既存の情報提供システム(バスロケーションシステムなど)の運用状況等の調査・分析及び鹿児島市に適したシステム方法、範囲、事業規模などの検討を行う。	特会	[概算コスト]0 [内訳] ・決算額 ・人件費	[概算コスト]0 [内訳] ・決算額 ・人件費	[概算コスト]2,456 [内訳] ・決算額 ・人件費	[概算コスト]3,859 [内訳] ・予算額 ・人件費	調査事業の業務委託件数 (単位:件)	[目標値]1 [実績値]1	[目標値]1 [実績値]1	[目標値]1 [実績値]1	[目標値]1 [実績値]1	バス運行情報提供システム導入の実現に向けた方向性の確定	[目標値] [実績値]	[目標値] [実績値]	[目標値] [実績値]	[目標値] [実績値]	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	-	A	A	現状のまゝ継続 (理由) 利用者ニーズと本市の特性にあった効果的なバス運行情報提供システムの導入に向け必要な事業である。	
20	施設維持・管理	桜島港フェリー施設整備事業	船舶部 船舶運航課	○事業開始年度 平成18年度 【概要】老朽化した施設の整備を行い、輸送施設の充実を図り、安全・快適な運航に資する。 【対象者】船舶利用者 【具体的な活動内容】 ・桜島港人道橋補修工事(平成18～21年度) ・桜島港可動橋補修工事(平成19～21年度) ・桜島港油圧装置設置工事(平成19年度) ・桜島港可動橋塗装工事(平成20～21年度) ・桜島港人道橋油圧配管補修(平成20年度)	国補助	[概算コスト]0 [内訳] ・決算額 ・人件費	[概算コスト]7,505 [内訳] ・決算額 ・人件費	[概算コスト]38,891 [内訳] ・決算額 ・人件費	[概算コスト]53,242 [内訳] ・予算額 ・人件費	工事発注件数 (単位:件)	[目標値]1 [実績値]1	[目標値]3 [実績値]3	[目標値]4 [実績値]4	[目標値]3 [実績値]3	桜島港フェリー施設の充実	[目標値] [実績値]	[目標値] [実績値]	[目標値] [実績値]	[目標値] [実績値]	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	A	A	現状のまゝ継続 (理由) 安全・快適な運航を確保するため、老朽化した施設の整備を行い、輸送施設の充実を図ることは必要である。	